

平成 30 年度総合技術研究会学外研修報告

工作部門 機械加工班 野口 靖祐

1. はじめに（目的等）

全国における技術職員の対応技術の方向性や動向を確認する。また上記 研修に参加して技術研修・講演会・ポスターセッション・口頭発表聴講を行い新しい技術・情報を得る。

2. 期間・場所

期間 平成 30 年 3 月 6 日～3 月 8 日（3 日間）

場所 九州大学 伊都キャンパス(福岡県福岡市西区元岡 744)

3. 参加者等

受講者 全国 技術職員：約 800 名

4. 研修内容

技術研修・講演会・ポスターセッション・口頭発表聴講

5. まとめと感想

機械工作技術及びガラス工作技術交流会（2019/3/6）

- ・べえごま コンテストの参加者による製作内容のプレゼンテーションを行った。

さまざまな分野の参加者から、技術の交流することができた。

- ・九州大学理学部ガラス工作室・機械加工室の見学を行った。

安全衛生技術講演会・特別講演「新元素の探索」森田 浩介 理学研究院教授（2019/3/7）

- ・被災者生活再建支援をもとに、震災被災地の技術職員による活動内容を聴講した。

被災時の緊急対応を念頭に置いた組織を構築しておく必要があると感じた。

- ・特別講演においては、ニホニウム発見にまつわる苦労や名前の付け方、発見や研究に対する意義

などの講演を聴講した。研究支援を行う上で技術職員の重要性を再認識した。

ポスター発表（2019/3/8）

- ・機械加工・実習担当の発表者と技術交流を行うことができた。

口頭発表 2（2019/3/8）

- ・機械・材料、製作分野の座長を行った。時間管理、質問内容などのアドバイス等、参加者の理解

が深めることを目的として対応した。